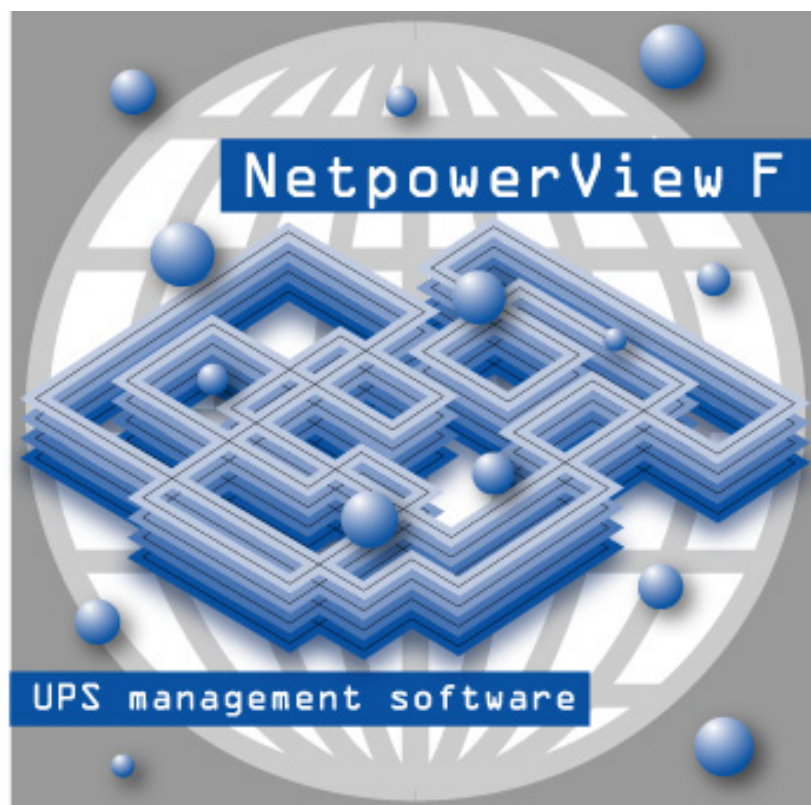


ネットワーク対応 UPS 管理/モニタプログラム



NetpowerView F[®] V5.4

インストール・ガイド

WindowsNT4.0/2000/XP/Server2003/Vista/Server2008
Windows 98/Me

INR-HF51936b

目次

第1章 NetpowerView F 製品概要	3
第2章 ハードウェア	3
第3章 ソフトウェア	4
第4章 インストール	5
4.1. UPS管理ソフト	5
4.2. RCCMD	13
4.3. 再インストール	19
第5章 アンインストール	20
5.1. NetpowerView F	20
5.2. RCCMD	22
第6章 その他	24
6.1. 富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項	24
6.2. 富士通製 ServerStart でインストールする場合の注意事項	25

商標

NetpowerView Fは富士電機システムズ(株)の登録商標です。その他すべての登録商標、商品名、会社名は各企業の所有物であり、情報の記載のみを目的として使用されます。

第1章 NetpowerView F 製品概要

NetpowerView F には以下のような特徴があります。

●UPS 管理プログラム

Windows NT4.0/2000/XP/Server2003/Vista/Server2008 上で実行されるサービスプログラムです。シリアルポートを介して UPS と通信を行い、UPS の状態監視や各種データの取得、ロギング、コマンドの発行等を行います。また、接続されている UPS の型式名や使用するシリアルポート番号、シャットダウン動作、イベント/ジョブなど、さまざまな設定も行います。UPS 管理プログラムは、UPS の管理を行うサーバに必ずインストールします。

●UPS モニタプログラム

UPS 管理プログラムが収集した情報の表示、バッテリーテスト、スケジューリング設定などを行うためのユーザインターフェースプログラムです。UPS 管理プログラムが導入されているサーバにインストールして UPS 管理プログラムに接続(ローカル接続)することや、または別マシンにインストールして、ネットワーク経由で接続(ネットワーク接続)し、UPS のモニタが行えます。

●RCCMD (Remote Console Command)

RCCMD は、同一ネットワーク(TCP/IP)上に存在する複数のサーバをシャットダウンさせることが可能です。

システム構成として、UPSから複数のサーバに電源が供給され、これらのサーバが同一ネットワーク上に存在する場合を想定します。これらのサーバのうちの 1 台(マスタサーバ)に UPS 管理プログラムをインストールし、他のサーバ(スレーブサーバ)に RCCMD をインストールします。停電発生時、UPSを制御しているマスタサーバは、他のスレーブサーバにネットワーク(TCP/IP)経由でシャットダウン指令(RCCMD コマンド)を送ります。スレーブサーバはRCCMDコマンド受信にて、OSをシャットダウンします。

第2章 ハードウェア

NetpowerView Fを使用するには、以下のハードウェアが必要になります。

- 高機能無停電電源装置(UPS)： NetpowerProtect シリーズ、GX シリーズ
- NetpowerProtect、GX 専用接続ケーブル(FIFA/WS9)
- IBM PC-AT 互換機 (Pentium 200MHz 以上)
- RS-232C シリアルポート
- ハードディスクの容量: 100MB以上
- メモリ: 64MB 以上

第3章 ソフトウェア

1. オペレーティングシステム

NetpowerView Fは以下のオペレーティングシステムに対応しています。

- UPS 管理プログラム: Windows NT4.0SP5 以上
- Windows 2000 (SP 未適用にて動作保証済みです。ただし、SP2 の適用を推奨します。)
- Windows XP (SP 未適用、SP2、SP3 にて動作保証済みです。)
- Windows Server 2003 (SP 未適用にて動作保証済みです。)
- Windows Vista (SP 未適用、SP1 にて動作保証済みです。)
- Windows Server 2008 (SP 未適用にて動作保証済みです。)

- UPS モニタプログラム： Windows 98/Me
Windows NT4.0SP5 以上
Windows 2000（SP 未適用にて動作保証済みです。ただし、
SP2 の適用を推奨します。）
Windows XP (SP 未適用、SP2、SP3 にて動作保証済みです。)
Windows Server 2003 (SP 未適用にて動作保証済みです。)
Windows Vista（SP 未適用、SP1 にて動作保証済みです。)
Windows Server 2008（SP 未適用にて動作保証済みです。）

2. 推奨画面サイズ

1024×768ピクセル

3. ネットワークプロトコル

以下のネットワークプロトコルが必要です。

- TCP / IP

4. サービス

UPS 管理プログラム(UPSMAN サービス)を動作させるためには、2つのサービスが必要です。

- Server
- Workstation

UPS 管理プログラムでSNMPエージェント機能を使用する場合は、以下のサービスが必要です。

- ## ●SNMP Service

第4章 インストール

4.1. UPS管理ソフト

1. インストールの前に、現在、動作させているアプリケーションをすべて終了させて下さい。
NetpowerView F の CD-ROM をセットします。しばらくするとNetpowerView F セットアップランチャーが自動再生されます。その中から[図 1 ランチャー起動画面(UPS 管理ソフト)]の赤丸部分のピクチャーをクリックして下さい。



図 1 ランチャー起動画面(UPS 管理ソフト)

2. しばらくすると、[設定言語の選択]ダイアログが表示されます。インストールで使用する言語を選択し、[OK]をクリックします。

注1) NetpowerView F がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールしてからインストールして下さい。アンインストールの方法は“5.1NetpowerView F”を参照して下さい。

注2) 自動再生されない場合には“winsetup¥setupups.exe”を実行して下さい。

注3) インストール時に言語を選択することが可能ですが、現状は日本語以外の言語に対応しておりません。他の言語を選択しないよう、ご注意ください。

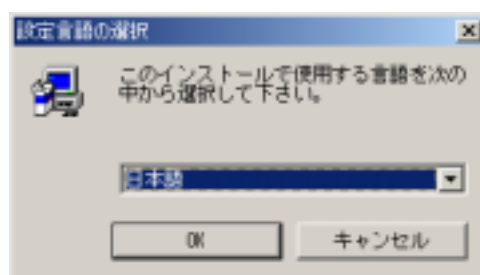


図 2 言語の選択

3. [情報の入力]ダイアログが表示されます。ライセンスキーを入力し[次へ(N)]をクリックします。

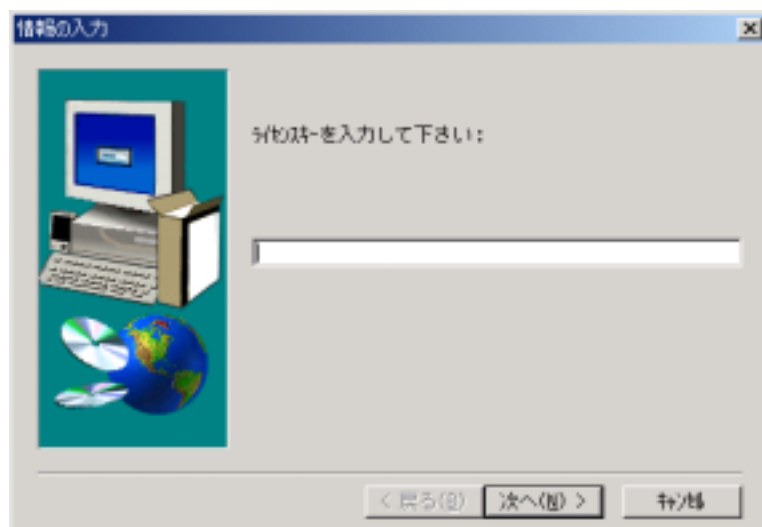


図 3 ライセンスキー入力

- 注1) UPS 管理ソフトをインストールする場合は CD-ROM ケースの裏面に書かれている「**UPS 管理ソフトライセンスキー**」を入力して下さい。キーコードの文字は数字のゼロと英語のオーを区別するためにオーの上に横棒を引いてあります。
また、英語(小文字)のエルは使用していませんので、1は必ず数字の1を表します。
RCCMD をインストールする場合は“4.2RCCMD”を参照してください。
- 注2) 正確に大文字、小文字を区別して入力して下さい。

数字のゼロ: 0

英語のオー: O

図 4 CD-ROM ケース裏面のライセンスキーに使用している文字

4. [情報一覧]ダイアログが表示されます。内容を確認の上[次へ(N)]をクリックします。



図 5 情報一覧

5. [製品ライセンス契約]ダイアログが表示されます。契約内容に同意する場合は、[はい(Y)]をクリックします。

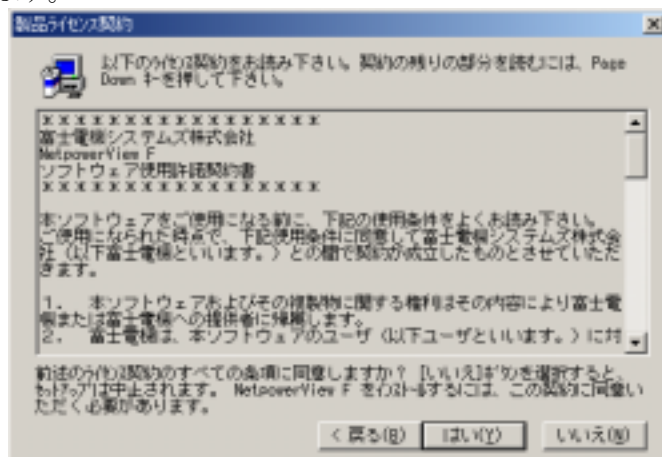


図 6 製品ライセンス契約

6. [NetpowerView F のタイトル]ダイアログが表示されます。[次へ(N)]をクリックします。

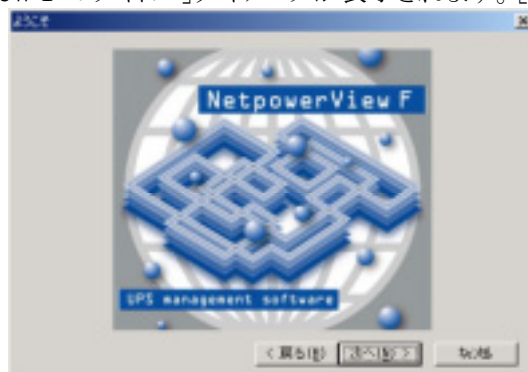


図 7 タイトル画面

7. [コンポーネントの選択]ダイアログが表示されます。インストールするコンポーネントを選択し、[次へ(N)]をクリックします。



図 8 コンポーネントの選択

UPS 管理プログラム

:UPS と RS-232C で接続して監視・制御を行います。

UPS モニタプログラム	:UPS の運転状態をモニタします。
Systemwalker 連携	:富士通製 Systemwalker と連携し、UPS に対して制御を行います。
MS Word97 形式ヘルプファイル	:Microsoft 社製 Word97 形式のヘルプファイルです。
PDF ヘルプファイル	:PDF ファイル形式のヘルプファイルです。

注1) Systemwalker 連携は UPS 管理プログラムを使用して UPS を制御します。インストールするコンポーネントとして選択する場合は、必ず UPS 管理プログラムも選択して下さい。

注2) UPS モニタプログラムのみをインストールする場合には、UPS 管理プログラムのチェックをはずして下さい。

8. [インストール先の選択]ダイアログが表示されます。

デフォルトでは “C:\Program Files\UPS” となっています。インストール先を変更する場合には、[参照 (R)] ボタンをクリックして下さい。決定したら [次へ (N)] をクリックします。

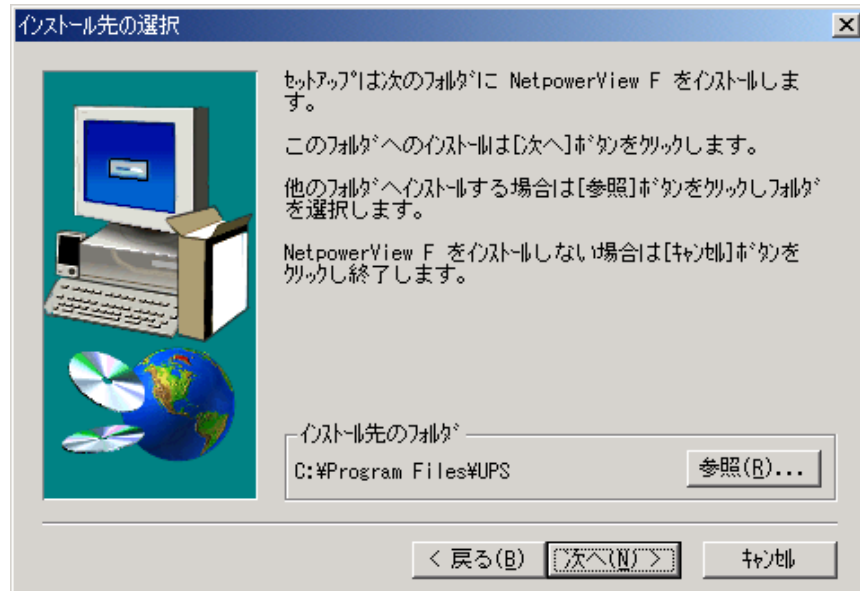


図 10 NetpowerView Fのインストール先

注) フォルダ名は半角64文字まで指定できます。

9. [プログラムフォルダの選択]ダイアログが表示されます。そのまま [次へ (N)] をクリックすることで、NetpowerView F のインストールが開始されます。



図 11 プログラムフォルダの選択

10. インストール終了後、NetpowerProtect が接続されている通信ポートと UPS 型式を自動検出するためのメッセージボックスが表示されます。自動検出する場合には[はい (Y)]、自動検出しない場合には[いいえ (N)]をクリックします。

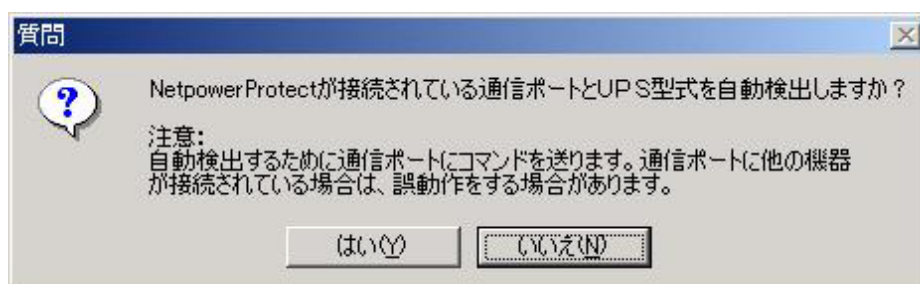


図 12 UPS 型式の自動検出

11. インストール終了後、DOS プロンプト画面が表示され、[UPS 管理プログラムの設定] ダイアログが表示されます。ライセンスキーの部分には、手順2で入力したキーコードが表示されます。UPS 型式、COM ポートを選択して[OK]をクリックします。設定の詳細はユーザーズ・ガイドを参照して下さい。UPS 管理プログラムの設定はインストール終了後でも可能です。

UPS管理プログラム

UPS

モデル(M):

型式: NetpowerProtect 1400VA Serial

ロケーション:

定格出力 [VA]: 1400 ホールタイム [分]: 5

負荷容量 [VA]: 1400 充電時間 [時間]: 8

デバイス(D):

通信ポート: COM2 通信速度: 2400

UPS ID: 0 ポート番号: 5769

ライセンスキー:

初期設定

V 5.4.00

拡張 OK キャンセル

図 13 UPS 管理プログラム設定画面

設定画面で選択可能な UPS 型式を以下に示します。
現状では、対応状況が「○」の UPS に対応しています。
「×」と表示されている型式は未対応ですので、選択しないで下さい。

表 1 UPS 型式一覧

UPS 型式	対応状況	UPS 型式	対応状況
M-UPS050AD-200	○	M-UPS050ADS-200	○
M-UPS050AD-210	○	M-UPS050ADS-210	○
M-UPS050AD-220	○	M-UPS050ADS-220	○
M-UPS050AD-230	○	M-UPS050ADS-230	○
M-UPS050AD-240	○	M-UPS050ADS-240	○
M-UPS075AD-200	○	M-UPS075ADS-200	○
M-UPS075AD-210	○	M-UPS075ADS-210	○
M-UPS075AD-220	○	M-UPS075ADS-220	○
M-UPS075AD-230	○	M-UPS075ADS-230	○
M-UPS075AD-240	○	M-UPS075ADS-240	○
M-UPS100AD-200	○	M-UPS100ADS-200	○
M-UPS100AD-210	○	M-UPS100ADS-210	○
M-UPS100AD-220	○	M-UPS100ADS-220	○
M-UPS100AD-230	○	M-UPS100ADS-230	○
M-UPS100AD-240	○	M-UPS100ADS-240	○
M-UPS050AD-100	○	M-UPS050AD-105	○
M-UPS050AD-110	○	M-UPS050AD-115	○
M-UPS050AD-120	○	-	-

表 2 UPS 型式一覧

UPS 型式	対応状況	UPS 型式	対応状況
M-UPS050ADS-100	○*注1	M-UPS014AD-240	○
M-UPS050ADS-110	○*注1	M-UPS030AD-200	○
M-UPS050ADS-115	○*注1	M-UPS030AD-220	○
M-UPS050ADS-120	○*注1	M-UPS030AD-230	○
M-UPS075ADS-100	○*注1	M-UPS030AD-240	○
M-UPS075ADS-110	○*注1	M-Series UPS	×
M-UPS075ADS-115	○*注1	FUJI M-SPS005	○
M-UPS075ADS-120	○*注1	FUJI M-SPS007	○
M-UPS100ADS-100	○*注1	FUJI M-SPS014	○
M-UPS100ADS-110	○*注1	FUJI M-SPS030	○
M-UPS100ADS-115	○*注1	FUJI M-SPS030-200	○
M-UPS100ADS-120	○*注1	PGSUP501	○
G-Series UPS	×	PGSUP701	○
M-UPS010AD-100	○	PGSUP141	○
M-UPS010AD-105	○	PGSUP301	○
M-UPS010AD-110	○	PG-R1UP701	○
M-UPS010AD-115	○	PG-R1UP141	○
M-UPS010AD-120	○	PG-R1UP301	○
M-UPS015AD-100	○	PG-R1UP302	○
M-UPS015AD-105	○	NetpowerProtect-Series	×
M-UPS015AD-110	○	NetpowerProtect 500VA	○
M-UPS015AD-115	○	NetpowerProtect 700VA	○
M-UPS015AD-120	○	NetpowerProtect 1400VA	○
M-UPS020AD-100	○	NetpowerProtect 3000VA	○
M-UPS020AD-105	○	NetpowerProtect 3000VA-200	○
M-UPS020AD-110	○	NetpowerProtect 1000VA	×
M-UPS020AD-115	○	FUJI M-UPS010J	×
M-UPS020AD-120	○	FUJI M-UPS015J	×
M-UPS030AD-100	○	FUJI M-UPS020J	×
M-UPS030AD-105	○	FUJI M-UPS030J	×
M-UPS030AD-110	○	FUJI M-UPS050J	×
M-UPS030AD-115	○	FUJI M-UPS075J	×
M-UPS030AD-120	○	FUJI M-UPS0100J	×
M-UPS007AD-200	○	FUJI 8029E	×
M-UPS007AD-220	○	FUJI 8059E	×
M-UPS007AD-230	○	FUJI 8069E	×
M-UPS007AD-240	○	FUJI 8079E	×
M-UPS014AD-200	○	PW 9155-10	×
M-UPS014AD-220	○	No UPS model defined	×
M-UPS014AD-230	○	CS 111	×

*注1 型式が MUPS-○○○ADS の UPS の場合、UPS 内部では 200V で動作しているため、UPS モニタプログラムでは入出力の電圧が 200V として表示されます。

12. UPS 管理プログラムの起動を確認するメッセージボックスが表示されます。
UPS 管理プログラムのサービスを開始する場合は、[OK]をクリックして下さい。

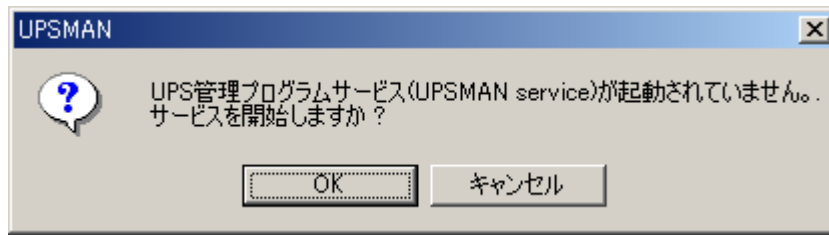


図 14 Upsman サービスの起動

注1) UPS 管理プログラムのサービスの設定はインストール後に[コントロールパネル]の[サービス]からでも可能です。

13. セットアップ完了のダイアログが表示されます。
“readme.txt”をすぐに読まない場合はチェックをクリアし、[完了]をクリックします。
これで、NetpowerView F のインストールは完了です。

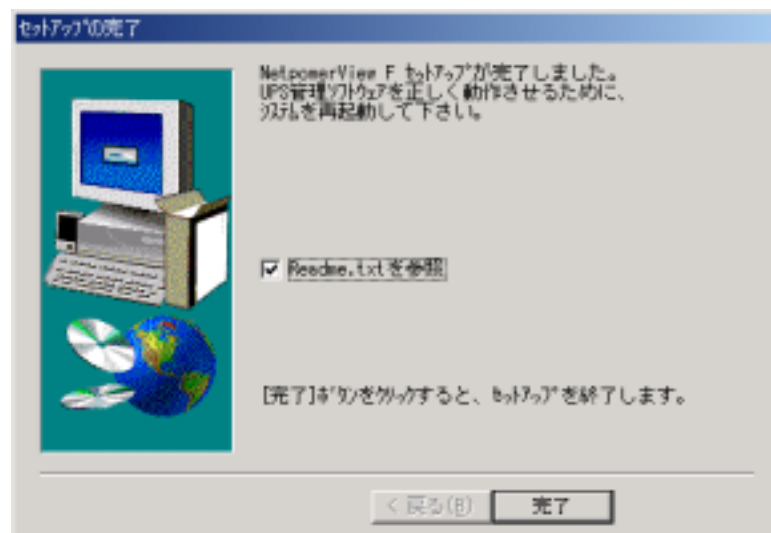


図 16 セットアップ完了

注1) 手順7の[コンポーネントの選択]ダイアログで“Systemwalker 連携”を選択した場合はインストール完了後、パスの設定を有効にするためにサーバの再起動が必要となります。

注2) Windows98/Me で、UPS モニタプログラムのみをインストールする場合、インストール終了手前で、「MS-DOS プロンプト」画面が表示されます。画面を閉じてインストールを継続してください。

4.2. RCCMD

1. インストールの前に、現在、動作させているアプリケーションをすべて終了させて下さい。
NetpowerView F の CD-ROM をセットします。しばらくすると NetpowerView F セットアップランチャーが自動再生されます。その中から[図 17 ランチャー起動画面(RCCMD)]の赤丸部分のピクチャーをクリックして下さい。



図 17 ランチャー起動画面(RCCMD)

2. インストールの前に、現在、動作させているアプリケーションをすべて終了させて下さい。
NetpowerView F の CD-ROM をセットします。しばらくすると自動再生されて[設定言語の選択]ダイアログが表示されます。インストールで使用する言語を選択し、[OK]をクリックします。

- 注1) RCCMD がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールをしてからインストールを行って下さい。アンインストールの方法は“5.2 RCCMD”を参照して下さい。
- 注2) 自動再生されない場合には“winsetup¥setupups.exe”を実行して下さい。
- 注3) インストール時に言語を選択することが可能ですが、現状は日本語以外の言語に対応していません。他の言語を選択しないよう、ご注意ください。

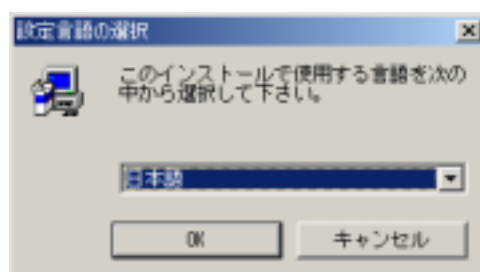


図 18 言語の選択

3. [情報の入力]ダイアログが表示されます。ライセンスキーを入力し[次へ(N)]をクリックします。

注1) CD-ROM ケースの裏面に書かれている「**RCCMD ライセンスキー**」を入力して下さい。

RCCMDは同一ネットワーク上のサーバ1台毎に、異なるキーコードが必要になります。

注2) 正確に大文字、小文字を区別して入力して下さい。CD-ROM ケースに使用している文字は、“4.1 UPS管理ソフト”を参照して下さい。

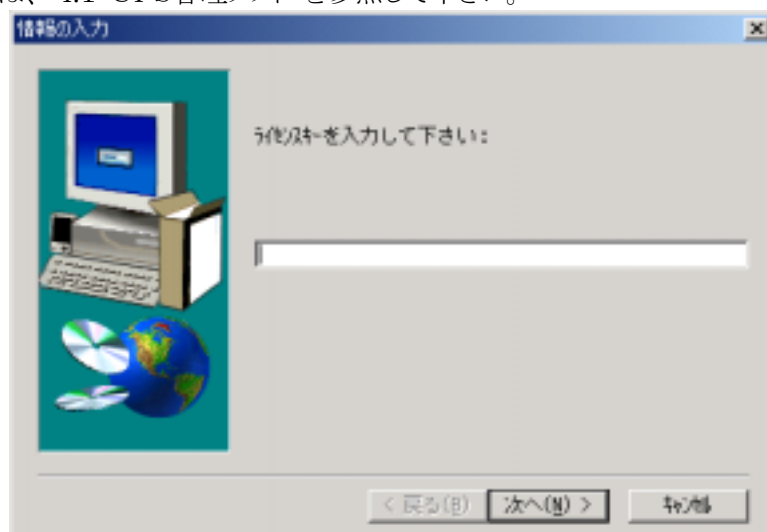


図 19 ライセンスキー

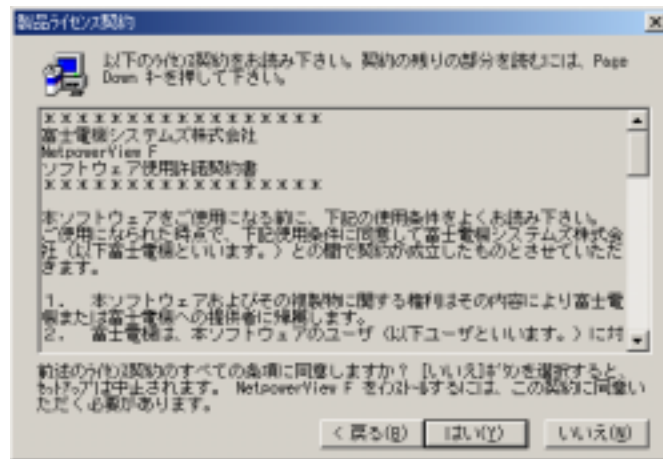
4. [情報一覧]ダイアログが表示されます。内容を確認し、[次へ(N)]をクリックします。



図 20 情報一覧

5. [製品ライセンス契約]ダイアログが表示されます。

契約内容に同意する場合は[はい(Y)]をクリックします。



6. [NetpowerView F のタイトル]ダイアログが表示されます。[次へ(N)]をクリックします。

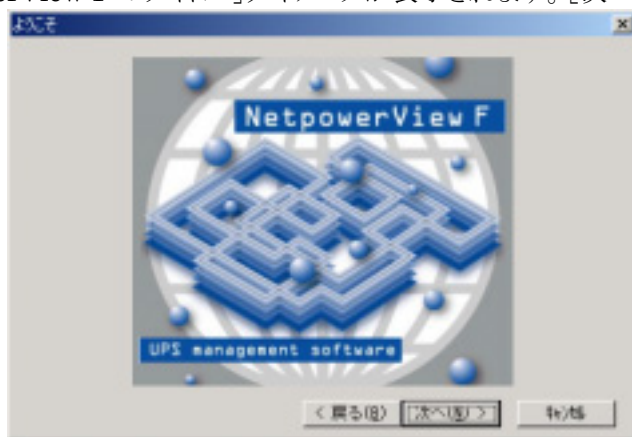


図 22 タイトル画面

7. [コンポーネントの選択]ダイアログが表示されます。
インストールするコンポーネントを選択し、[次へ(N)]をクリックします。



図 23 コンポーネントの選択

8. インストール完了後、RCCMD Wizard 画面が表示され、RCCMD に関する設定を行います。
その際、[キャンセル]をクリックすると、最初からインストール作業していただくことになりますので、[OK]をクリックしてください。

注) 設定内容の詳細については、ユーザーズ・ガイドを参照して下さい。

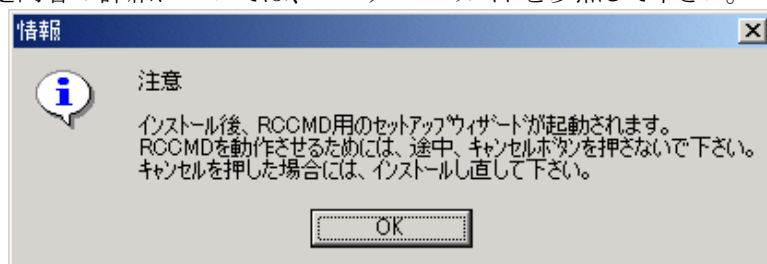


図 24 RCCMDセットアップウィザード

9. [インストール先の選択]ダイアログが表示されます。
デフォルトでは “C:\RCCMD”となっています。インストール先を変更する場合には、
[参照(R)]ボタンをクリックして下さい。決定したら[次へ(N)]をクリックします。



図 25 インストール先

注)フォルダ名は半角64文字まで指定できます。

10. [プログラムフォルダの選択]ダイアログが表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックすることで、RCCMD のインストールが開始されます。



図 26 プログラムフォルダの選択

11. インストール終了後、「RCCMDの設定」画面が表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックします。

注) 手順9と同様、[キャンセル]ボタンをクリックすると、今までのインストール作業が無効になります。もし、「キャンセル」ボタンをクリックしてしまった場合、お手数ですが、もう一度、アンインストールから作業をしていただくことになりますので注意して下さい。

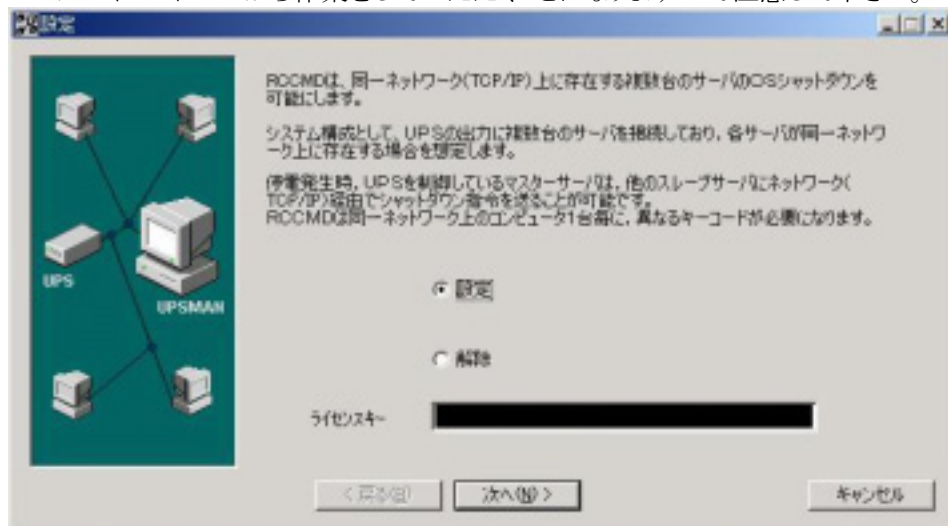


図 27 RCCMD の設定

12. 「シャットダウンを許可するマスタサーバ」画面が表示されます。特定のサーバからのシャットダウン信号のみ許可する場合に設定します。

また、RCCMDで使用するポート番号の変更も可能です。詳細は、ユーザーズ・ガイドを参照して下さい。

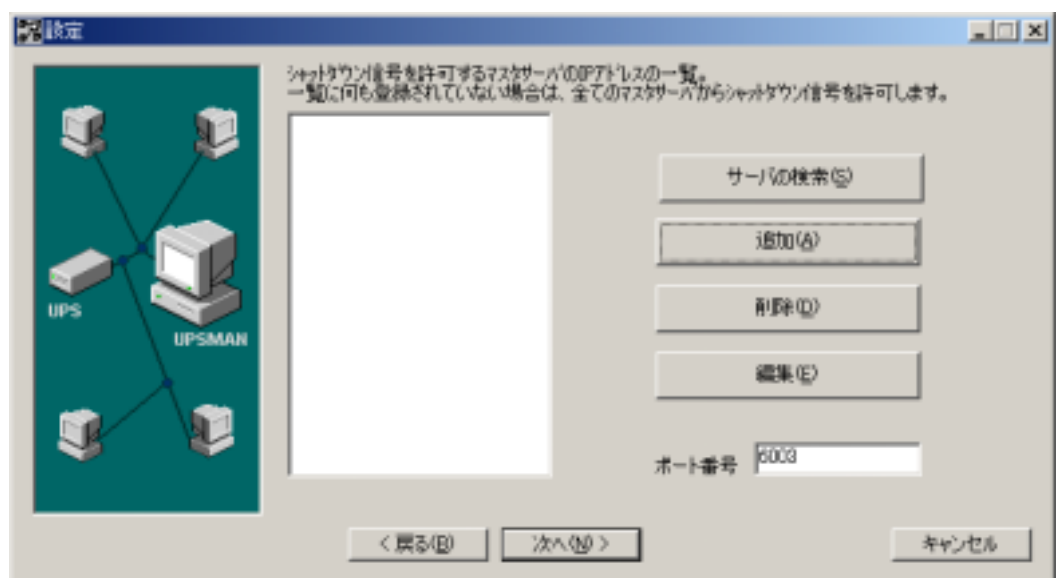


図 28 シャットダウンを許可するマスタサーバ

13. [次へ(N)]をクリックすると「ログ・ファイル設定」、「バッチファイル設定」画面が表示されます。RCCMD受信時に起動するバッチファイルを設定、また RCCMD のログ・ファイルのサイズを設定します。詳細は、ユーザーズ・ガイドを参照して下さい。

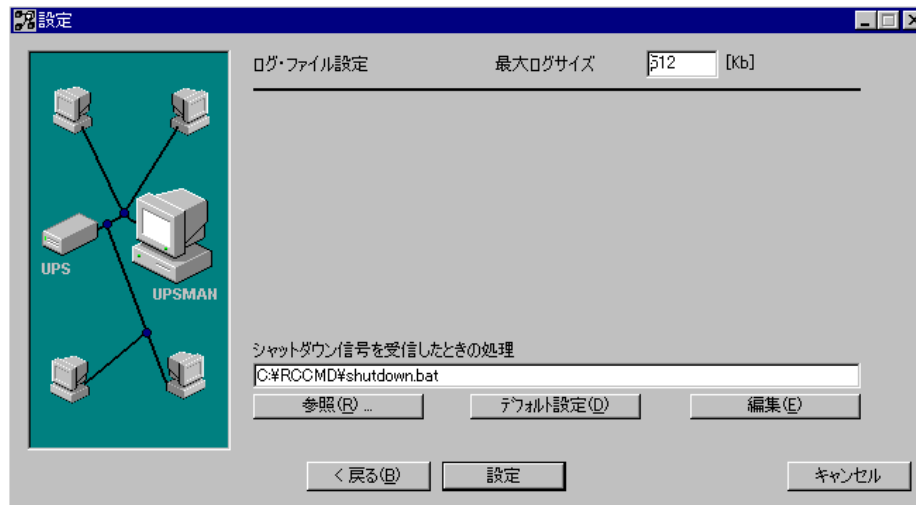


図 29 バッチファイル設定

14. セットアップ完了のダイアログが表示されます。
“readme.txt”をすぐに読まない場合は チェックをクリアし、[完了]をクリックします。
これで、RCCMD のインストールは完了です。



図 30 セットアップの終了

4.3. 再インストール

再インストールをする場合は、一度アンインストールをしてからインストールして下さい。
上書きインストールはできません。

第5章 アンインストール

5.1. NetpowerView F

1. [スタート]→[プログラム]→[NetpowerView F]→[アンインストール NetpowerView F]または、[コントロールパネル]→[アプリケーションの追加と削除]から[NetpowerView F 変更／削除]をクリックします。
2. アンインストールの開始を確認するダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

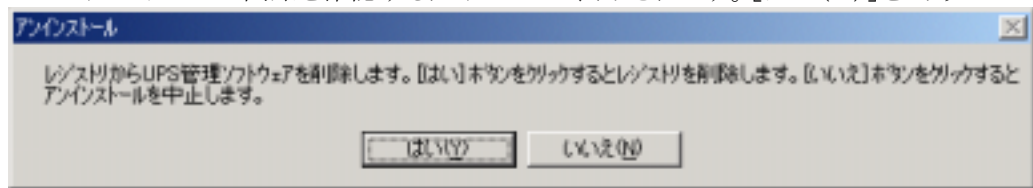


図 29 アンインストール

3. [ファイル削除の確認]ダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

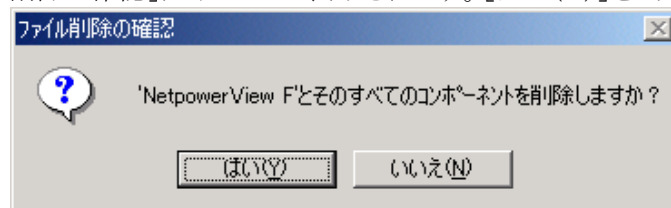


図 30 ファイル削除

注1) [ファイル削除の確認]ダイアログで[はい(Y)]をクリックした後に、[共有ファイルの削除]を確認するメッセージボックスが表示される場合があります。

ファイル名が“Qscrnt.dll”の場合は[はい(Y)]をクリックして削除して下さい。

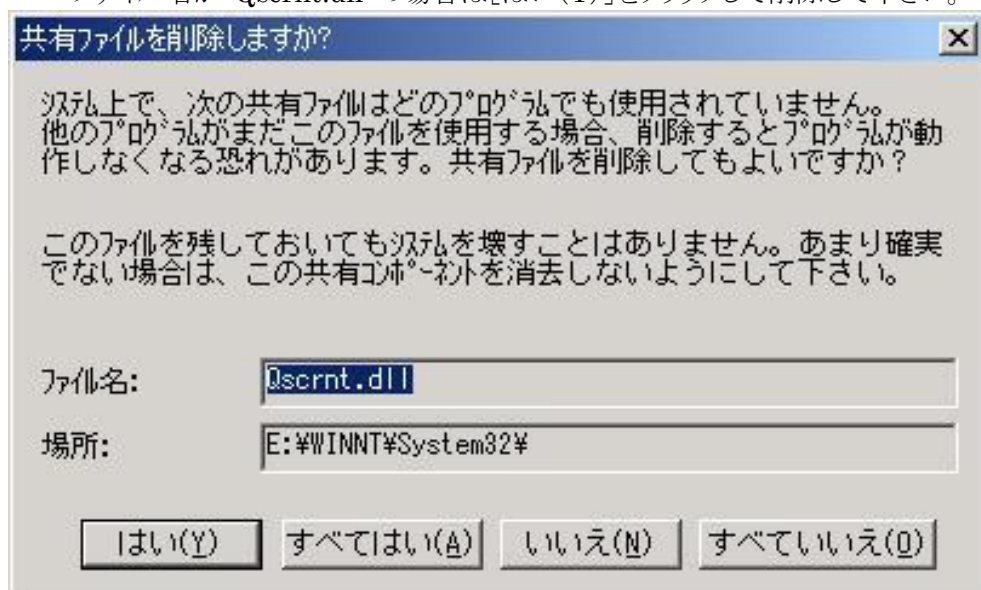


図 31 共有ファイルの削除

注2) アンインストール完了後、いくつかのファイルが残ることがあります。[詳細]をクリックして、内容を確認し、ファイルを削除して下さい。

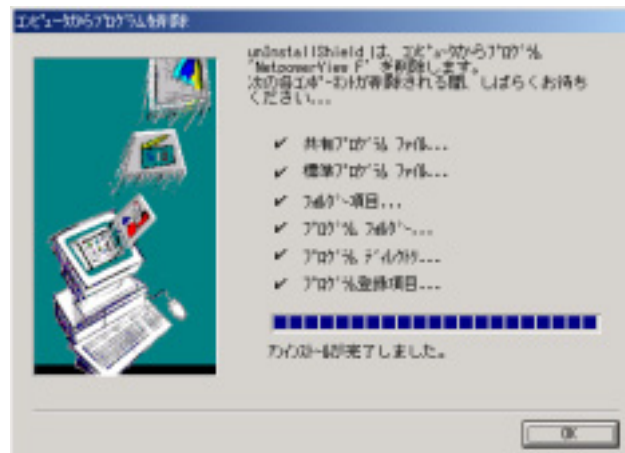


図 32 アンインストール完了

注3) Windows98/Me で、UPS モニタプログラムのみをインストールした場合、アンインストール終了手前で、「MS-DOS プロンプト」画面が表示されます。画面を閉じてアンインストールを継続してください

5.2. RCCMD

1. [スタート]→[プログラム]→[RCCMD]→[アンインストール RCCMD]または、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]から[RCCMD 変更／削除]をクリックします。
2. アンインストールの開始を確認するダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

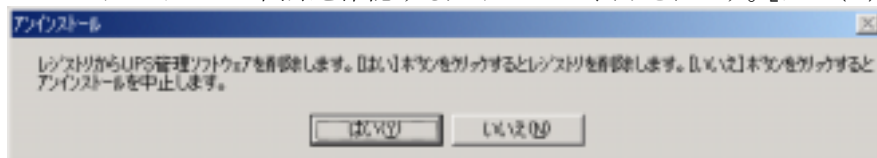


図 33 アンインストール

3. [ファイル削除の確認]ダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。



図 34 ファイル削除

注1) [ファイル削除の確認]ダイアログで[はい(Y)]をクリックした後に、[共有ファイルの削除]の確認メッセージボックスが表示される場合があります。ファイル名が“Qscrnt.dll”の場合は[はい(Y)]をクリックして削除して下さい。

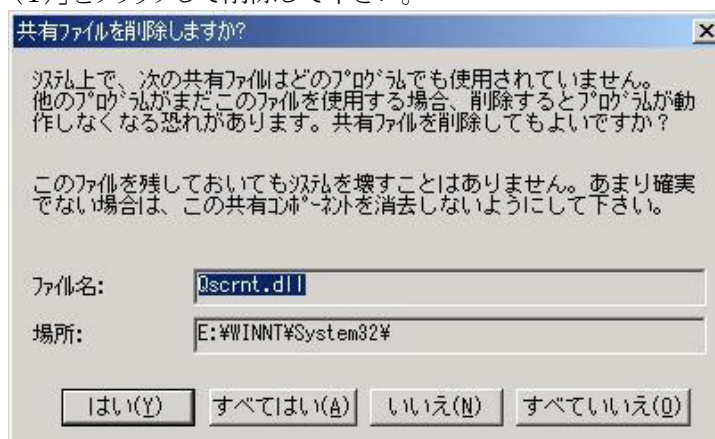


図 35 共有ファイルの削除

注2) アンインストール完了後、いくつかのファイルが残ることがあります。[詳細]をクリックして、内容を確認し、ファイルを削除して下さい。

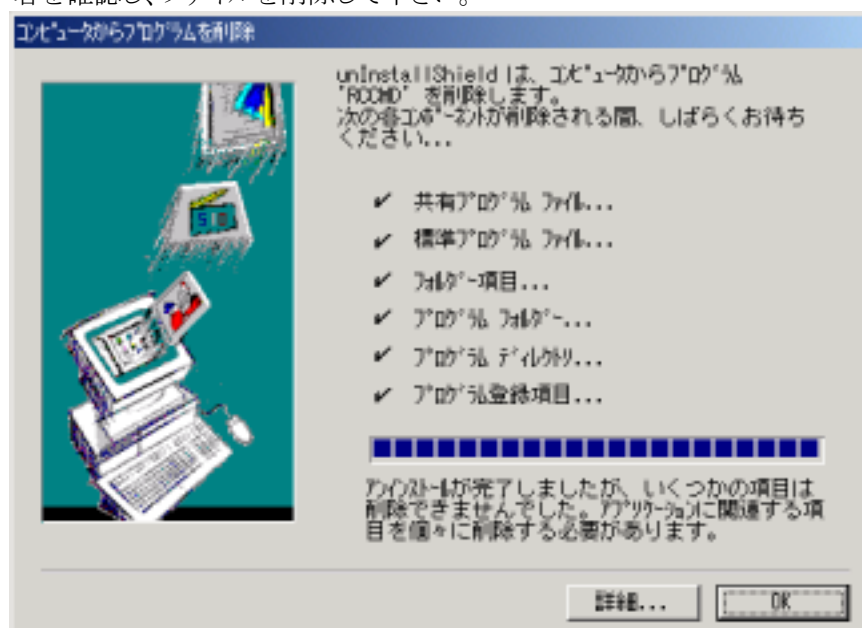


図 36 アンインストール完了

第6章 その他

6.1. 富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項

NetpowerView F をインストールできる富士通製 ServerWizard を使用する場合、以下の注意事項があります。

1. 本ソフトウェアをインストールするために「アプリケーションの設定」画面の「サーバアプリケーション」にて「NetpowerView F」をチェックします。

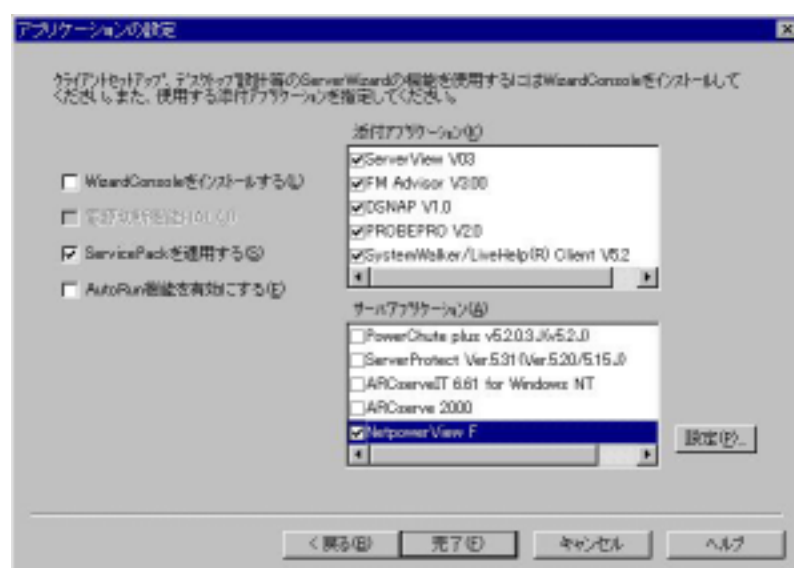


図 37 使用する添付アプリケーションの指定

2. 「NetpowerView F」の設定において、「UPSの設定」の「UPSモデル」に富士通㈱UPS型名が表示されない場合があります。この場合は、下記の対応表に従い設定してください。

表 3 UPS型式対応表

富士通㈱UPS型名	UPSモデル
PGSUP501	M-SPS005
PGSUP701	M-SPS007
PGSUP141	M-SPS014
PGSUP301	M-SPS030
PG-R1UP141	M-SPS014
PG-R1UP301	M-SPS030



図 38 NetpowerView Fのセットアップ情報

3. ServerWizard が UPS 管理プログラム(UPSMAN サービス)をインストールする際、スタートアップの種類を「手動」とします。 従って、サーバを再起動すると UPSMAN が自動的に起動しません。手動で UPSMAN を起動して下さい。 また、コントロールパネルにてスタートアップの種類を「自動」として下さい。

6.2. 富士通製 ServerStart でインストールする場合の注意事項

1. 「NetpowerView F」の設定において、「UPSの設定」の「UPSモデル」に富士通(株)UPS型名が表示されない場合があります。この場合は“6.1富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項” 表2の対応表に従い設定してください。
2. ServerStart が UPS 管理プログラム(UPSMAN サービス)をインストールする際、スタートアップの種類を「手動」とします。 従って、サーバを再起動すると UPSMAN が自動的に起動しません。手動で UPSMAN を起動して下さい。 また、コントロールパネルにてスタートアップの種類を「自動」として下さい。